

# 対馬のイカ漁に本腰

## 来年は二百隻出漁へ

不知火海沿岸漁民の対馬海域でのイカ釣りは順調に進められているが、熊本県では来年一月から三月まで先達船二十隻をチャーター、四百万円予算で同海域の寒イカ釣りを指導する。

同海域には水俣病で操業できなくなった不知火海沿岸の漁民が三千隻をくり出し、イカの一本釣りをやっているが、成績がよいことから、来年は二百隻を出漁させ、これを本格的に指導しようというもの。予算は十二月県議会の追加予算案に計上される。

また県では十日夜、県指導船「くま丸」七・五トを水俣

港から出港させ、県当局や水俣市、葦北郡津奈木、葦北、湯浦の各関係漁協代表が同乗、対馬

海域で操業中の不知火海沿岸漁民を激励する。

